

第5回菊池市総合計画策定審議会 要約記録

日時:平成 26 年 11 月 13 日(木)

午後 1 時 30 分～

場所:菊池市役所 本庁 3 階大会議室

(次第)

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

議事① 第 2 次菊池市総合計画について

議事② その他

4 閉会

議事① 第2次菊池市総合計画について

事務局より総合計画案の全施策内容について説明した後、出席委員全員から全般的な感想、施策の内容などについての意見をいただいた。

結論及び合意内容

- ・ 前回の審議会で出された意見などについては、すべて担当課と調整を行ない、反映できるものについては計画書に反映した。今回の審議会ですらに全般的な内容、各施策について意見を出していただき、事務局で必要に応じて計画書に反映を行ない11月26日～12月25日の間でパブリック・コメントを実施する。
- ・ 基本計画のなかの「重点施策」について説明し、施策に「重点」を付したことで、市長の任期内で取り組む優先度を明確にした。
- ・ 施策11は「国際交流・都市間交流の推進」へ変更した。
- ・ 施策のレイアウトサンプルを示し、多くの委員から見やすくなったと感想をいただいた。

主な発言や意見、アイデアなど

- 変更や修正した箇所は、着色するなどして区別してあれば、読みやすかったと思う。
- レイアウトサンプルを見て、すっきりして見やすくなったと感じた。
各施策を実際進める過程で、市民に情報を周知していくことが大事である。情報の流れ図、連絡体制、伝達方法、伝達メディア、手法などを記載した組織図のようなものがあれば分かりやすい。メインは広報であるが、事業実施の各担当から直接情報が流れることもあると思うので、情報発信の方法は、単にインターネットで情報を発信するだけではなく、見ることができない人のことも考慮した周知方法の検討が必要。
- レイアウトサンプルが良くなった。「重点施策」の記載もあったほうが分かりやすく感じる。
- それぞれの施策の問題点を評価、点数化することで進捗状況を市民に分かりやすくしてはどうか。今ある成果指標は、重点となる項目だけの目標なので、これだけで判断されては困る。これまでの問題点がいくつあって、どのくらいの割合が解決できたかということの数値化すれば、より把握できるのではないだろうか。
- 住民の満足度調査は、計画書作成のために5年に1回程度で毎年実施していない。現行の計画書は、満足度を指標化してあったので、主観的な評価になりがちであった。
新たな計画書は、行動やアウトカム(成果)となるものを指標化し、評価することになっているので、問題点に対しどれだけ解決したかという評価は、別途満足度調査などで今後検討していくことで代えられる。
目標達成を確認する満足度調査は、定期的に行うことが重要なかもしれない。

○ 各施策の中に進捗状況が確認できるデータ等があれば分かりやすい。

また、ある項目がどの何節に関連するなどというように、指摘する箇所がすぐ見つけられる様式だと分かりやすい。

今後、担当課は計画に基づき、しっかりと事業管理を行い、取り組んでいくことが重要。

○ 家畜防疫のことを細かく記述してありよかった。

○ これまでの様々な意見がよく反映されていると感じる。レイアウトサンプルは見やすくなり、写真も入ってとても感じがよくなった。あとは空白がないようにすれば立派になると思う。

○ レイアウトが見やすくなった。前回からの変更内容は、大きく変更されておらず文章の区分け程度のような。施策で何をすることも地域力を生かした地域づくりが重要。地域と地域の横の強いつながりが必要であるが、難しい課題でもあると思う。

地域教育力の低さは、子ども達の健全育成を妨げていると感じている。

○ 前回と比べて改善し、重点的なものがハッキリ見えてきてよかったと思う。

地元産業の育成の方策が出ていないと感じた。農業に力が入っている計画だが、地元産業は農業だけではないから、総合産業的に取り組まないと菊池ブランドの力は出てこない。

菊池基準とは農業ばかりではなく、商業、観光にも通じるもの。各課でどのように考えているのか教えてほしい。各施策の内容に、それぞれの分野のブランドや菊池基準を盛り込む必要があるのではないか。「菊池らしさ」を示すことで、第 2 段階として市民がいろんなことを考え、取り組みにつながればいい。元気な産業づくりに関する施策分野について、農業と商業の説明が出てこないのを検討してはどうか。

道路の4車線化などが進むことによるメリットもあれば、人口流出に拍車をかけるといったようなデメリットも出てくるかもしれないので、将来のビジョンを見据えた施策が重要になってくる。

○ 地域福祉に携わっているが、市民協働はとても大事だと感じる。人と人のつながりが、人を育て、地域を育てることになる。心を共有する人が集まり、メッセージを託すことができれば、いろんなことに参加し、自分にできる役割を持てる。協働の対象者を単に「市民」とするのではなく具体名にすることで協力体制を作ることができる。市民が気軽に声を交わし、参加しやすい取り組みを育てることが重要だと思う。

○ 満足度調査は 5 年に 1 回ではなく毎年実施すれば、市民の満足度や施策の進捗状況を把握できる。また、重点施策は市長のマニフェストを反映しているので、毎年実施することで市長マニフェストの評価にもつながり、緊張感を持って施策を実施できる。

地域づくりを進める中で、地域おこし協力隊制度の活用はとても素晴らしいと思う。竹田市は 20 数名いる一方、菊池市は 1 名しかいない。地域に活力を与える意味でも、この制度にもっと力をいれる必要があると思う。

○ よくまとまっていると思うが、「…努めます。…図ります。」という言葉が多いので、「いつまでに…やります」と期限が分かると市民は安心できる。

○ 「課題解決に向けた取り組み」の中に「…図ります」「…努めます」とあるが、努力はするが成果は知らないという感じを受ける。目標があるならば、言い切るように末尾を検討してはどうか。

○ パブリック・コメントは、実施することを住民に分かりやすく周知してほしい。庁舎整備のパブリック・コメントには1件の意見が出ただけで、いつ実施されたか分からなかった。

目標値はあるが、毎年度その評価はできているか。

○ 市の情報発信が住民全体に伝わっていないという感じを受ける。パブリック・コメントの実施にあたっては周知方法を工夫する必要がある。

○ 見やすくなり、よくまとめられていると感じる。重点施策もいいと思う。

菊池市には観光をする際のボランティアガイドはいるのか。

県から合併アンケートを実施されたが、市民が合併してよかったと実感できる取り組みを実施してほしい。

○ 地方の小学校は地域とのつながりが強く、親密な関係がある。また、地域が子どもを育てていることを実感している。地域に根ざした小学校であったが、合併が進み廃校となったことで、もとの地域の中で人々のつながりが途切れないか心配。

小学校の部活動が社会体育課の管轄になるので、子ども達の練習場の使用料を心配する。

○ 校区単位での連携を図りながら、地域づくりの単位として充実を図る必要がある。市が学校教育、生涯教育の面において地域づくりの単位を意識しているのか疑問に感じる。担当課はその単位を意識し、学校教育の中で地域の方が関わる機会を提案し、「菊池ならではの」取り組みが生まれてくればいいと思う。

○ 福祉分野について、施策 14「高齢者福祉の充実」で現在介護保険制度の見直しが行なわれているが、既に明らかになっている内容は記載すべき。施策 16「地域福祉の充実」で、第 2 期地域福祉計画に基づき事業を進めるとあるが、成果指標の地域サロンの立ち上げだけが小地域活性化事業ではない。現在、地区社協は 11 団体あるが、まだ地区社協がない地域を支え合い活動モデル地区に指定し、福祉の様々な取り組みを地域ごとに広げていきたい。成果指標の中に福祉座談会の取り組みを追加し、30%から 50%の目標を設定していただきたい。協働の対象者に、地区社協(地域独自の福祉団体)、民生委員(最重要な役職)を入れてほしい。

施策 1「菊池ブランドの確立」の中の「6 次産業」について、6 次産業化に取り組む主体として農家だけではなく、地域の農産物を育て上げる意味で地産地消を促進することができる食品加工

業者にも育ってほしい。地域独自の農産物加工をもっと前に打ち出すことが、地域の活性化につながる。

定住促進に必要なものは、教育・文化・移動しやすい環境が大事だと感じる。教育では、高等教育に市として取り組める範囲があると思うので、取り組める内容を記載していいと思う。また、定住促進のなかで交通面を考えると、大分方面の交通に目を向け大分自動車道との接続について言及してはどうか。菊池はどんづまりという印象をもたれがちなので、裾を広げる必要がある。

計画は市民の目線になって市がつくるが、地域が関心を持つような、また協力したくなる文章表現が重要。

計画書に「小見出し」を付けると開きやすくなるので、工夫してほしい。

○部・課単位で取り組み内容が途切れている場合が多いので、例えば6次産業については農業主体だけに入っているが、菊池ブランドにも関係することなので、農政課以外の課に関連する組織を明示してもいいと思う。

○施策30「開かれたまちづくりの推進」のなかで、ケーブルテレビなどの地域テレビは小さい町でも行なっているのが、菊池市にもあればイベントの広報や防災にも役立ち、他の様々な分野でも活用ができると思う。

○泗水地区では個別防災受信機があるが、それ以外の地区にはない。現在防災デジタル放送施設の整備を実施しているところ。ケーブルテレビではないが、RKK放送の「dボタン」を押すと行政・防災情報などを見ることができ、若い方から高齢の方までテレビを通じて、簡単に情報を取得できるようになった。

高校の魅力化については、県の管轄ではあるが、行政にできることとして、施策10「地域づくり活動の推進」のなかで住民、学生、行政が連携した域学連携に取り組んでいる。

○ 現在、菊池市は熊本大学を含む3大学と包括的連携協定を締結しており、大学へ市職員を派遣したり、地域と大学が協力して地域づくりに取り組むなど連携が活発になっている状況なので、大学についての記載をしてはどうか。

○ レイアウトにメリハリがでてきた。いかに実効性を上げて、進捗管理を含め市民に分かりやすく伝えることが大事。レイアウトに補足するとすれば、全体的な総括として施策と成果指標の一覧があるといいと思う。観光ガイドについては、ここにいらっしゃる坂本さん、服部さんをはじめ菊池には観光ガイドが多くボランティアで頑張られている。

○ 「ハートフルパートナーシップ」という言葉について、委員の方はどう思われるか意見を出して欲しい。事務局で引き続き検討すること。

○ 新聞に載った記事で5軒に1軒が空き家になる。菊池市も同様な状況になるのではないかと危惧する。18、19ページの図だけでは、この先どうしていくのかよく見えないので、19ページの後にでも平成23年に作った都市計画図を掲載してはどうか。平面図に工場の箇所や桜を植える箇所などを落とし込むことで、計画書が生きてくると思う。

○ 菊池にイズミが進出するという情報が新聞で報道された。人の流れが変わるということは、近隣地区の渋滞が予測されるので渋滞などの対策は大丈夫だろうか。

○ イズミの進出については、関係課で課題を整理し、情報収集と協議を行っている。道路は警察との協議が必要となるので、警察から右折レーンの設置など渋滞解消の指示があるのではないかと。

○ 大分道との接続について、県は旭志から阿蘇に抜ける道路の拡幅工事を予定しているようであったが、実際はどうなのか。県では3ルート案を作成しアンケートの実施があったところ。

○ ふるさとまつりなどのいろんなイベントには、市長に顔をだしてもらえないだろうか。

○ 市長のスケジュールについて、住民や職員との対話は時間の許す限り積極的に行っているところであるが、スケジュール調整が難しい状況。可能な限り対応できるよう努力する。

○ 一般の市民には様々な行政の情報や民間、商業、農業、NPOの動きなどの情報が伝わっていない現状がある。先ほどケーブルテレビの話が出たが、行政にお願いするということではなく、テレビ関係に精通する者が観光協会や商工会などと協力して、主体的に発信していくことが必要。

○ RKKのデータポンでは完全に周知の代用ができていないものがある。どのくらいの予算が必要なのか。地域のいろんな団体や組織を活用して、重複してでも市民に伝達することが重要。観光協会イベントの情報を行政の広報誌やチラシ等で流しても、市民が知らないというのは市民側にも反省すべき点があるのではないだろうか。まずは、素晴らしい菊池の広報誌があるので、自助努力として市民は目を通すことが大事ではないだろうか。

○ P15、16、25の鍵括弧は『癒しの里』と「きくち」のどちらが正しいのか。

○ 施策評価委員会の実施についての記載は必要ないのか。施策30開かれたまちづくりの推進のなかで、施策を実施していくうえで進捗管理は重要だと思うので検討してはどうか。

議事② その他

- ・ 18日に最終資料を送るので、ご一読後25日まで何かあれば事務局へ連絡をお願いします。
- ・ 今後のスケジュールは、1月末頃に最後の策定審議会を開催し、パブリック・コメントの意見

に対する回答と答申内容の確認を行う。その後、3月の議会で議決を得る。

- ・ パブリック・コメントの実施にあたっては、より多くのご意見をいただくことを目的としているので、市民に広く周知するため12月の回覧やホームページでお知らせを行なう。
- ・ 計画書のレイアウト完成後は、市民が見やすい簡略化した計画書の概要版を作成する。